



野鳥の 不思議解明 最前線 #104

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2014

さえずるクロツグミ。今年のクロツグミは
平年並みだったよう。撮影●内田博

インターネットで家から森の鳥の調査

～今年のさえずりは早い？ それとも遅い？～

繁殖期です。毎週、何か所かの森林調査地をまわってセンサスをする日々です。遠出の調査に行ったときは、必ず、地元のカツ丼を堪能し、撮影することになっているのですが、5月は10個の新たなコレクションが増えていました。成人病にならぬようにしっかり歩いて調査せねば。

こうして調査していると、「何だか鳥が少ないなあ」と感じたりすることがあります。けれども、鳥の数が実際に少ないのでしょうか？ それともさえずりのピークがまだ来ていない（あるいは、もう過ぎてしまって）記録できた数が少ないのでしょうか？ 数回の調査では、よくわかりません。でも家から遠い森林の調査を高頻度でやるのは無理ですよえ…。

いや、できるんです。東京大学などが運営しているCyberForestの仕組みをつかえば。これは埼玉の秩父や山梨の山中湖、長野の志賀高原などいくつかの場所に設置しているマイクにインターネットを通じてアクセスできる仕組みです。早朝にこのライブ配信を聞けば、家に居ながらして山の中の様子を聞くことが出来ます。

ここ4年間、何人かの方と一緒にこのライブ音の聞き取りをしています。これまでの秩父での聞き取り結果をみても、ゴジュウカラは今年は早くからさえずりが下火になってしまったこと、コルリは逆にさえずり頻度がなかなか上がらず、例年は5月中旬にピークになるのに、5月下旬にようやくピークに達したことがわかります（図1）。

先週、秩父に調査に行ってきたのですが、ゴジュウカラは少なく、コルリは多く感じました。けれども、ライブ音の聞き取り調査の結果から考えると、実際にゴジュウカラが少なく、コルリが多かったわけではなく、今年のさえずりパターンがセンサスの結果に影響した可能性も考えられますよね。新しい技術が出てくると、いろいろ結果の解釈も広がります。

このライブ音配信、どなたでも聞くことができます。また聞き取り調査への参加も歓迎です。早起きする必要がありますけど。詳細は以下をご覧ください。

http://www.bird-research.jp/1_katsudo/forest/index.html#live

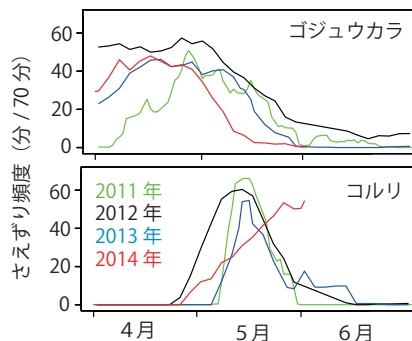


図1. 埼玉県秩父演習林での聞き取り調査の結果。赤線が今年のさえずり頻度。

紹介した論文

植田睦之・黒沢令子・斎藤馨. 2012. 森林音のライブ配信から聞き取った森林性鳥類のさえずり頻度のデータ. Bird Research 8: R1-R4.